

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570214304		
法人名	有限会社 つなぎの里		
事業所名	グループホーム つなぎの里(ぼんだ)		
所在地	秋田県能代市二ツ井町小繋字麻生道端87-3		
自己評価作成日	平成24年7月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=05">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=05</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成24年7月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念である‘自由・絆・笑顔’をもとに、人と人とのつながりを大切にしながら、利用者はもちろん、地域の方との交流を大事にすることを心がけ、日々取り組んでいる。  
 自然に囲まれた当事業所は盆踊りや畑作り、昼食会など出来るスペースがある。同一敷地内にあるショートステイとは、災害時の連絡体制や交流をすぐ取れる状況にあり、利用者の安全と安心を確保している。建物だけに限定されない外での活動を行うことで、利用者ができる事を尊重したサービスに取り組んでいる。運営推進会議も2ヶ月に1回開催し、地域の方の声も聞き入れ、よりよいホーム作りを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営理念をホールに掲げ、その実現に向けて取り組んでいる。職員が意見を出し易いよう環境が整備され、業務の改善等に繋げている。また、職員の資質向上に向けた研修への取り組み等から、人づくりにも重点を置いている。運営推進会議は、積極的に取り組んでおり、近隣3地区町内会長や市職員等との連携が構築されている。看取りに関する指針が定められており、終末ケアに対応出来る体制が整えられている。町内会行事にも積極的に参加し、ボランティアの受入れ等も行なわれ、透明性が確保されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自由・絆・笑顔という理念を掲げ、日々取り組んでいる。人と人とのつながりを大切に、家庭的な雰囲気作りをめざし楽しい里であるよう職員一同努めている。	管理者が、ミーティング等の会議を通じて、理念に即した指示を行っている。職員は、具現に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事等への参加の機会を作り、毎年ホームへ盆踊りなど来ていただいている。また今年の6月には、地域交流会を開催し交流の場を設け、利用者や地域の方と楽しく過ごすことができた。	事業所行事には、地域住民を招待したり、地域の運動会や敬老会、もちこ祭り等の行事へ積極的に参加したりと、地域に自然に溶け込めるよう工夫しながら交流の輪を広げている。地域住人からも漬物、野菜等の差し入れをもらったりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域住民からの相談・問い合わせがあった際はその都度対応している。また運営推進会議を生かし、地域の方にホームの理解と協力をお願いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、ホームの状況報告などを行い、意見や提案があった際は、スタッフミーティングの際に報告、話し合いを行いサービスの向上に生かしている。	年6回の開催を確認した。行政・民生委員・町内会長・家族会・事業所関係者で構成している。主に、情報交換等であり、外部評価等についても報告されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通じて、市の職員に参加していただき、事業所の報告や災害対策等について話し合いを行い、助言などいただいている。	市の主管課と、常時情報交換等を行っており、関係も良好である。市の担当者は事業所の状況を受けとめ、様々な課題の解決に向けて一緒に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	説明し、納得できない場合は、スタッフ付き添いのもと外出していただいたりと工夫しケアに取り組んでいる。	事業所は、身体拘束をしないケアを目標に取り組んでいる。身体拘束をしないケアを理解するため、研修に参加している。やむを得ず、身体拘束をしなければならない場合には、本人や、家族の同意を得ていることを確認した。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については注意を払い、内部研修を行ったりすることで防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業について、現在3名の方が利用しており、必要な方には活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族などの不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い、理解・納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見や苦情などがあつた際は、職員間で話し合い、運営推進会議やグループホーム協会などの助言を受け、運営に反映させている。	苦情等に関して、家族に意見を求めていることを確認した。利用者には、日常のさりげない会話の中から思いや希望を聞くようにしている。それらの声をケア計画に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで意見を出し合ったり、週に1度業務内容や職員の意見や提案を管理者から代表者に報告している。	ミーティング等で忌憚のない意見を出し合っている。代表者や管理者は、職員の意見やアイデア等を真摯に取り上げ、業務改善に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が、労働時間・勤務状況などを報告しており、必要時環境整備など行っていたらいい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や協会などの研修へ計画的に参加し、スキルアップに努めている。また研修報告をミーティングにて行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟し、情報交換や研修会の参加、内部研修など行い、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者との話を聞き、家族からも情報を得、利用者とは話し合う時間を作るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	普段の面会時や電話により、雰囲気づくりをし気軽に相談できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事や食事作りを一緒に行い、会話や作業を共に行えるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月1回の新聞や支払い等で家族とのコミュニケーションを図って情報を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣ユニットに顔見知りの利用者と接する機会を設けたり、行きつけの理髪店も継続利用している。	本人が培って来た家族や知人、社会との関係が途切れない様支援している。希望者には、行きつけの理髪店や出前の美容院等の利用を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が共同で作業できるようにスタッフも中に入り、声かけ等で関わり合い支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、継続的に関わりを必要とする方に対しては、継続した関わりを支援できるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の暮らし方や思いを日々の会話の中から、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人の様子や家族からの話を取り入れ、その人にあった暮らしができるようにしている。	利用者一人ひとりの思いや希望・意向の把握に努めている。困難事例には、個人史に活路を見出し、ケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアプラン作成時、アセスメント記入を基に、これまでの経過などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送り、カンファレンスなどで、一人ひとりの現状を話し合いながら共有するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の要望等を取り入れた上で、スタッフ全員が意見を出し合い介護計画を作成している。	利用者や家族の意見を、計画に活かしている。利用者の現状に即したケア計画を作成し、状態変化の都度、見直しを行っている。計画作成は、利用者の担当の職員が中心になり、サービスケア会議で話し合っており、これを共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子やケアの実践を行ったものを終日記録し、良い部分は継続し、改善が必要な時は、話し合いの機会をもち、介護計画に取り入れている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その時々状況に応じて、地域行事への参加を継続している。行事の際は、ボランティアの方や保育園の方々に来ていただき支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の病状、状態について、スタッフ、家族で把握できるよう連絡、話し合いを行っている。かかりつけ医、近隣医との連絡を密にし適切な受診や看護が受けられるよう支援している。	利用者や家族が希望する医療機関への受診や、薬局等への利用を支援している。付き添いは事業所で行っているが必要に応じて家族が付き添うこともある。歯科は、訪問診療を利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員や地域医療機関と連絡を取り相談しながら利用者の適切な受診や看護に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	個々の健康状態の把握に努め、医療機関、看護職員へ連絡・相談を密にし適切な治療が受けられるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後の変化に備えて、地域のかかりつけ医と共にチームとしての支援に取り組んでいる。カンファレンス・ミーティング等で重度化、終末期でのより良いケアの仕方など話し合いの機会を設けている。	利用開始時に、「入居者の重度化した場合における対応に係る指針」を家族に説明している。事後、態様の変化によって、個々の希望に添って医師・本人・家族・事業所を含めて対応することとしており、その事例も確認した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に適切な対応ができるよう勉強会をミーティング時に行い、知識の向上に努め、救命講習などへの参加も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者の計画により、年2回の避難訓練を行ない、ミーティングの際、全職員が避難方法を身につけるよう話し合うと共に、運営推進会議で地域の方に協力をお願いしている。	年2回の防災訓練を計画、今年6月に消防署も加えた通報訓練、初期消火訓練を実施したことを確認した。緊急時の、関係機関や同一敷地内他事業所への連絡・協力体制も整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損ねる言葉かけや対応は行っていない。スタッフは、利用者と同じ目線で接することを心がけている。	言葉による暴力で尊厳や誇りを損なわないケアの実践に心掛けている。提供するサービスの質の向上に向けて研修に取り組んでいる事を確認した。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人に合わせた声かけを行い、自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望にそって、その日その日の思いを支援するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	毎朝の洗顔、髪ブラッシングに努めている。また季節にあった衣服や入居者の好みにあった衣服にするよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みに合わせ、盛り付けなどに気をつけている。入居者と一緒に準備や片づけを行っている。	利用者の希望を取り入れた献立作りをしている。下ごしらえ等を、職員と利用者が一緒に行っており、利用者の経験が職員の参考になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表への記入により、摂取量を把握できている。各自に合わせた食事形態や好みの飲み物などを提供し摂取量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。歯ブラシ、ガーゼ使用による口腔清拭、うがい薬による嗽、義歯洗剤を使用し、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄時間を記入することで、一人ひとりの排泄パターンを把握している。訴え時や時間をみてトイレ誘導を行っている。	個々の尊厳を傷つけない取り組みを目指している。利用開始時に紙おむつ使用であった利用者が、行動観察やトイレ誘導等で布パンツに改善された事例がある。排泄の自立に向けた成果である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、食物繊維、運動量などを個々の状態に合わせて支援している。また便秘が続く場合、主治医へ相談し下剤を処方していただき調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の健康状態に合わせて入浴を楽しめるよう支援している。また足の清潔保持が必要な方には、毎日足浴を行っている。	利用者は週に3回入浴している。その他外出や菜園の世話等で発汗があった場合には、シャワー浴を行う等、利用者の状況に応じて柔軟に対応している。体調の優れない時には清拭を行い、健康管理に努めている。足浴は、毎日行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動、外出、入浴などで安心して気持ちよく眠れるよう支援している。また一人ひとりの様子を見て、状態が把握できるよう見守りしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては主治医を通し、理解に努めている。副作用や症状の変化などあった際は看護師へ聞くなどし、対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人、できる事を役割として行っている。季節に合わせた行事や誕生日会、外出や散歩など気分転換できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	年間行事計画を立て、花見、紅葉、つつじなど季節に応じて外出を楽しむことができるよう支援に努めている。また外への散歩や畑仕事、外での昼食会など気分転換できるよう努めている。地域行事への参加、家族との外出や家族会など本人の希望を把握した支援を行っている。	普段は可能な限り戸外に出よう心掛けている。隣市にあるアジサイ公園見学や紅葉見学、花見等へ出掛けたりと、利用者が季節と触れ合ったり、楽めるよう支援している。園前庭の芝生では、だまっこ鍋等、食事を楽しむ機会を多くとっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は、お小遣いをいくらか持っており、それ以外の方は、ホームで管理し希望した際職員が買い物代行するなどの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があった場合、ダイヤルし本人に通話していただいている。また毎年、家族の方に年賀状を手作りで送るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったり、カレンダーを作ったり季節感のあるものを作っている。行事や甘い日の生活の様子が分かるよう写真を貼り、入居者と話題が広がるように努めている。またトイレの換気・消臭・空調管理、エアコンも直接入居者に風が当たらないよう配慮している。	食堂(ホール)、廊下等々は、利用者が居心地よく過ごせるよう、行事写真や作品等も飾られ、全体的に清潔感のある空間となっていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	食卓やソファなど気の合う人同士、隣に座っていただいたり、廊下奥へ椅子とテーブルを設置したり、玄関へ椅子を設置することで独りで過ごす空間も大切にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中は、リビングで職員や他の利用者とは話を楽しみながら過ごしている。季節ごとに家族に衣替えを行っていただくなどし、居室には家族写真を飾ったり、使い慣れた物を置いたりすることで居心地良く過ごせるよう努めている。	利用者が安らぎを得られるよう、使い慣れた馴染みの物を持ち込み、落ち着いた部屋になっている事を確認した。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室には、手すりを設置しており、また場所がわかりやすいよう目印をつけ、自立できるような支援を行っている。		